

2021年度 事業報告

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

1 会員数の状況 (2021年3月31日現在、カッコ内は前年度)

一般正会員 (会費1口5千円)	98	(96)
団体正会員 (会費1口1万円)	21	(22)
特別正会員 (会費5万円以上)	5	(5)
一般賛助会員 (会費1口2千円)	111	(104)
団体賛助会員 (会費1口1万円)	3	(3)
特別賛助会員 (会費3万円以上)	1	(1)
企業賛助会員 (会費1口10万円)	0	(0)

2 会議の開催の状況

(1) 総会・理事会 (全て Zoom によるオンライン会議)

2021年

5月8日	第1回理事会
6月6日	第2回理事会
6月15日	第3回理事会
6月27日	通常総会

(2) 運営会議 (全て Zoom によるオンライン会議)

9回開催 (2021年4月7日、6月なし、7月20日、8月20日、9月30日、10月22日、11月22日、12月なし、2021年1月27日、2月24日、3月22日)

3 事業の実施の状況

(1) 調査研究事業

2021年

4月15日	シギ・チドリ部会ミーティング
6月4日	シギ・チドリ部会ミーティング
7月16日	シギ・チドリ部会ミーティング
7月22日	シギ・チドリ部会ミーティング
7月23日	シギ・チドリ部会ミーティング
9月23日	シギ・チドリ部会ミーティング
10月10日	シギ・チドリ部会ミーティング
10月15日	フライウェイ国内モニタリング検討会に参加
10月10日	シギ・チドリ部会ミーティング
11月20日	シギ・チドリ部会ミーティング
11月24~25日	東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ (EAAFP) ヘラシギ特別委員会会議
12月5日	渡り性水鳥フライウェイ全国大会に参加
12月15日	モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査オンライン検討会に参加
12月18日	エコユース八代野鳥観察会と水の学校参加

2022年

- 1月22日/3月11日 吉野川河口みらい講座に参加
- 2月2～3日 フライウェイ国内モニタリングオンライン検討準備会に参加
- 2月24日 EAAFP 国内連絡会に参加
- 3月29日 EAAFP ヘラシギ特別委員会会議

(2) 保全・再生事業

<1. 保全再生事業> 具体的な保全対象地がある場合

沖縄開発問題部会

2021年

- 5月17日 【声明】 諫早湾開門をめぐる和解協議に期待する
- 6月12日 【賛同】 大浦川河口の鳥獣保護区（特別保護地区）の指定を求める要望書
- 6月30日 【請願】 韓国ナクトンガン（洛東江）河口湿地の保全を求める請願と呼びかけ
- 9月8日 【意見書】 石木ダム建設工事並びに県道等付替道路工事続行工事差止請求控訴事件への公正な判決を求める
- 11月21日 ヘラシギ国際シンポジウム（八代+web）開催
- 6月4日 大浦湾の鳥獣保護区（特別保護地区）の指定を求める要望書（連名）
- 7月18日 奄美沖縄の世界自然遺産登録でユネスコ世界遺産委員会への働きかけへの賛同
- 9月12日 風力発電パブコメ（環境アセスの要件緩和に反対）
- 9月22日 嘉徳海岸侵食対策事業の一時中止と再検討の要望（連名）
- 10月9日 オンラインシンポジウム「沖縄のサンゴ礁を考える～（第1回）泡瀬干潟～」
- 11月5日 オンラインシンポジウム「沖縄のサンゴ礁を考える～（第2回）砂浜～」
- 11月6日 オンラインシンポジウム「沖縄のサンゴ礁を考える～（第3回）サンゴ礁」
- 11月13日 オンラインシンポジウム「沖縄のサンゴ礁を考える～（第4回）浦添」
- 11月25-27日 石垣島（アンパル湿地など）現地視察
- 11月29日 （仮称）石垣リゾート&コミュニティ計画に関する要請書（連名）
- 12月16日 「（仮称）石垣リゾート&コミュニティ計画」に関する要請書（連名・再提出）

2022年

- 2月2日 首里城再建で 沖縄県、屋良部岳のオキナワウラジロガン伐採見送りへ
- 2月17日 ユネスコ世界遺産センターとIUCN宛書簡への賛同
- 3月11日 サンゴ礁ウイーク・オンラインイベント
- 3月22日 「（仮称）石垣リゾート&コミュニティ計画」を沖縄県が承認

田んぼ10年プロジェクト

2021年

- 4月15日 第82回水田決議円卓準備会
- 4月15日 第86回水田部会
- 6月10日 第83回水田決議円卓準備会
- 6月10日 みどりの食料システム戦略意見交換会
- 6月16日 第87回水田部会
- 7月1日 第88回水田部会
- 7月15日 第84回水田決議円卓準備会
- 8月3日 第89回水田部会

8月25日 第85回水田決議円卓準備会
 8月30日 学習会「気候変動と水田」を開催
 9月16日 第1回農業の多面的機能支払い制度等についての意見交換会
 9月17日 田んぼだより22号発行
 9月29日 第90回水田部会
 10月20日 第86回水田決議円卓準備会
 11月4日 第91回水田部会
 11月11日 第2回農業の多面的機能支払い制度等についての意見交換会
 11月29日 第92回水田部会（11/29～12/1の3日間で実施）
 12月28日 田んぼだより23号発行
 12月12日 「田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクトキックオフ集会」を開催
 12月15日 新農林水産省生物多様性戦略への意見交換会

2022年

1月6日 第93回水田部会
 1月21日 第3回農業の多面的機能支払い制度等についての意見交換会
 2月3日 第94回水田部会
 2月14日 みどりの食料システム戦略法制化への提言書
 2月25日 第87回水田決議円卓準備会
 3月3日 第95回水田部会
 3月30日 田んぼだより24号発行

<2.政策提言事業> 対象地域は不特定

次期生物多様性国家戦略へ「湿地」を組み込むための提言

2021年

4月16日 第18回提言のための勉強会（以下「勉強会」）
 7月2日 第19回勉強会
 7月15日 第20回勉強会
 7月27日 第21回勉強会
 8月4日 第22回勉強会（意見交換会準備）
 8月5日 環境省との意見交換
 12月23日 環境省とNGOの意見交換会で、再度、湿地に関する意見報告

2022年

2月15日 第23回勉強会
 2月28日 第24回勉強会
 3月7日 第25回勉強会
 3月14日 第26回勉強会
 3月31日 第27回勉強会

農業と生物多様性保全について農林水産省との意見交換

2021年

4月15日 第82回水田決議円卓準備会
 6月10日 第83回水田決議円卓準備会
 6月10日 みどりの食料システム戦略意見交換会

- 7月15日 第84回水田決議円卓準備会
- 8月25日 第85回水田決議円卓準備会
- 9月16日 第1回農業の多面的機能支払い制度等についての意見交換会
- 10月20日 第86回水田決議円卓準備会
- 11月11日 第2回農業の多面的機能支払い制度等についての意見交換会
- 12月15日 新農林水産省生物多様性戦略への意見交換会
- 2022年
- 1月21日 第3回農業の多面的機能支払い制度等についての意見交換会
- 2月25日 第87回水田決議円卓準備会
- 2月 水田の生物・文化多様性 2030 プロジェクト水田目標 2030 発行

声明等

2022

- 2月2日 世界湿地の日に全ての湿地の十全な保全求める共同声明（韓国 KWNN と共同発表）
- 2月14日 みどりの食料システム戦略法制化への提言書

(3) 普及・啓発事業

2021年

- 4月～8月 湿地のグリーンウェイブ 2021、キャンペーン実施
- 4月 湿地のグリーンウェイブ 2021 リーフレット（A5判 16頁/2,500部）制作・発行
- 4月17日 「湿地のグリーンウェイブ 2021 キックオフミーティング～みんなでオンライン湿地自慢～」をオンラインで開催
- 4月28日 「お茶会」を開催（話題提供「食べ物を通じて生物多様性を考える」XXXXXXXXXX）
- 5月26日 「お茶会」を開催（話題提供「公共事業による湿地破壊の典型--諫早湾干拓事業」XXXXXXXXXX）
- 6月23日 「お茶会」を開催（話題提供「ほんとはすごいビートランド（泥炭湿地）」XXXXXXXXXX）
- 7月28日 「お茶会」を開催（話題提供「アンケートから見る干潟と若者」XXXXXXXXXX）
- 8月25日 「お茶会」を開催（話題提供「夢をありがとう～絶滅から復活したシジュウカラガン、40年の物語～」XXXXXXXXXX）
- 9月22日 「お茶会」を開催（話題提供「高病原性鳥インフルエンザと野鳥」XXXXXXXXXX）
- 10月27日 「お茶会」を開催（話題提供「道東の『奇跡の島』春国岱（しゅんくにたい）とラムサール条約」XXXXXXXXXX）
- 11月6日 「湿地のグリーンウェイブ 2021 オンライン・ミーティング～ポスト 2020 における湿地保全と地域の活動～」を開催（
- 11月24日 湿地のグリーンウェイブ オンライン「お茶会」を開催（話題提供「吉野川河口域の20年 川と海と空のつながり」XXXXXXXXXX）
- 12月22日 湿地のグリーンウェイブ オンライン「お茶会」を開催（話題提供「東日本大震災から10年 津波被災からの田んぼの復興」XXXXXXXXXX）

2022年

- 1月 湿地のグリーンウェイブ 2022、募集開始

- 1月24日 湿地のグリーンウェイブ オンライン「お茶会」を開催（話題提供「田んぼは魚のゆりかご」XXXXXXXXXX）
- 2月23日 湿地のグリーンウェイブ オンライン「お茶会」を開催（話題提供「釣りゴミ、困ってませんか？」XXXXXXXXXX）

(4) 国際協力事業

2021年

- 4月1日 世界湿地ネットワークアジア地域代表会議
(World Wetland Network Asia subregional Committee) 以下「WWN-A」
Web例会（以下同じ）
- 4月21日 世界湿地ネットワーク・マネジメント委員会
(World Wetland Network Management Committee) 以下「WWN-M」
Web例会（以下同じ）
- 5月3日～6月13日 第15回生物多様性条約締約国会議準備会合（第24回科学技術助言補助機関会合（SBSTTA24）・第3回生物多様性条約実施補助機関会合（SBI3）・第3回ポスト2020生物多様性世界枠組みに関する作業部会（OEWG3）にオンライン参加
- 5月6日 WWN-A 例会
- 5月19日 WWN-M 例会
- 6月3日 WWN-A 例会
- 6月16日 WWN-M 例会
- 7月1日 WWN-A 例会
- 7月21日 WWN-M 例会
- 7月7月5日～7月9日 第9回アジア湿地シンポジウム（韓国・スンチョン・オンライン参加）
- 7月26日 ラムサール50周年ファクトシート翻訳勉強会
(以下「ファクトシート翻訳」という。)
- 10月13日 WWN-A 例会
- 10月22日 日韓湿地NGOフォーラム・韓国との打ち合わせ（Web）
- 10月26日 ファクトシート翻訳
- 10月29日 WWN-M 例会
- 11月17日 WWN-A 例会
- 11月21日 ヘラシギ国際シンポジウム（in 八代市 + web ハイブリッド）
- 11月27日 日韓NGO湿地フォーラム・韓国との打ち合わせ（Web）
- 12月3日 WWN-M 例会
- 12月4日 日韓湿地NGOフォーラム1日目（八代、仁川 + Web ハイブリッド）
- 12月5日 日韓湿地NGOフォーラム2日目（同上）
- 12月17日 WWN-A 例会
- 2022年
- 1月11日 世界湿地概況（GWO）2021特別版・翻訳勉強会（以下「GWO2021翻訳」）
- 1月14日 WWN-M 例会
- 1月15日 GWO2021翻訳
- 1月21日 WWN-A 例会
- 1月23日 GWO2021翻訳
- 1月28日 同上

1月29日 同上
1月31日 同上
2月5日 同上
2月10日 同上
2月12日 同上
2月14日 ラムサールCOP14 サイドイベント日韓打ち合わせ (w e b)
2月17日 GWO2021 翻訳
2月19日 同上
2月22日 ラムサールCOP14 サイドイベント日韓打ち合わせ (w e b)
2月25日 WWN-M 例会
2月26日 GWO2021 翻訳
3月4日 WWN-A 例会
3月5日 GWO2021 翻訳
3月13日 同上
3月14日~29日 SBSTTA24/SBI3/OEWG3 (スイス・ジュネーブ、オンライン参加)
3月24日 ラムサールCOP14 サイドイベント日韓打ち合わせ (w e b)
3月25日 WWN-M 例会

(5) ネットワーク推進事業

「ニューズレター」4回発行 (4月8日、7月20日、11月19日、1月14日)

(6) その他の事業

なし

4 助成金・受託事業の状況

- (1) 地球環境基金助成金 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト
2021年4月~2022年3月 2,566,000円
- (2) パタゴニア環境助成金プログラム
2022年1月~2023年1月 2,000,000円
- (3) 経団連自然保護基金 球磨川プロジェクト・日韓NGO湿地フォーラム
2021年4月~2022年3月 1,390,000円
- (4) 環境省 GWO2021 翻訳業務 請負契約
2022年1月27日~2022年3月18日 770,000円

2021年度事業報告(プロジェクト別)

(1)調査研究事業

●シギ・チドリ部会

2021年度のシギ・チドリ部会は、現地訪問や対面での会議がほぼ不可能な中、リモートでの情報交換を行った。中心の議題は、開発事業が進行中の岡山県玉島干拓において、シギ・チドリ類の生息地を確保するため、地元で事業者と地域の人々への働きかけを企画する[]を中心とするグループ「たましま干潟と鳥の会」の支援であった。リモートでの会議のため、球磨川や博多湾、吉野川河口などの経験の他、外部の専門家の広い視野からの助言も得て、保全手段や啓発活動の方向性が見えて来て、地域に働きかける機会の創出を目指した企画に向かうことができた。吉野川河口は橋梁事業の環境影響評価から、シギ・チドリ類に関するデータも蓄積されており、[]他、他団体の専門家とも協力して、取り組んだ。

●ヘラシギ国際シンポ 11月

11月21日(日)八代市とwebを結んでハイブリッド開催。(詳細は球磨川プロジェクトの項参照のこと)

●モニタリングサイト1000(MS1000)シギ・チドリ類調査

12月15日(水)、2021年度及びこれまでの5年間の調査に関する検討会があり、検討委員として[]が参加した。

●EAAFP国内連絡会

2022年2月24日にEAAFPの活動の国内での実施について話し合うEAAFP国内連絡会がオンラインで行われ、[]が参加した。

●吉野川プロジェクト

吉野川河口から14.5kmにわたる汽水域とそこに広がる河口干潟は国内最大規模を誇る。2022年3月21日最河口の高速道路が開通し、約20年間にわたる河口域に係る大型開発は節目をむかえた。

1)シギ・チドリ部会での吉野川河口の調査データの情報整理

最河口の高速道路橋モニタリング調査において、シギ・チドリ類、底生生物、地形変化等が集積し公開されており、河口域が持つ科学的データとしては全国でも屈指と言われている。高速道路開通後今後2年間の事後モニタリング調査が行われる。シギ・チドリ部会と協力して、これらの情報収集および情報共有を行った。

2)吉野川河口みらい講座(オンライン)の開催

吉野川河口の多様な価値を再確認し、多様な視点から考え、未来に引き継ぐ方法を見つけるために、地元のとくしま自然観察の会と共催でオンライン講座『吉野川河口みらい講座』の開催をはじめた。吉野川河口域のラムサール登録に向けて市民の意識高揚につなげるプロジェクト。これまで2回開催し、YouTube公開している。話題提供は、[]であり、講師料等は、とくしま自然観察の会による地元の助成金をあてた。第1回オンライン講座2022年1月22日(土)「底生生物からみた吉野川河口域の重要性」第2回オンライン講座2022年3月12日(土)「渡り鳥にとって吉野川河口域はどんなところ？」

(2)保全再生事業

<1 保全再生事業>

●沖縄・開発問題部会

1.意見書、シンポ、現地視察など

- ・「水の自然な流れ」を求める活動として2本の意見書を出した。
 - 1)5月に諫早湾開門請求異議訴訟(福岡高裁)での和解協議に期待する声明
 - 2)9月に石木ダム建設工事差し止め訴訟での公正な判決を求める意見書
- ・7月の奄美沖縄世界自然遺産登録を受けて登録地が抱える問題点について地元団体からユネスコに伝える働きかけに賛同した。

- ・ コロナ禍のため現地に行けない状態が続いたため、オンラインでサンゴ礁関係のシンポを4回実施した。泡瀬干潟、サンゴ礁、砂浜、浦添をテーマにした。
- ・ サンゴの日（3月5日）の前後のサンゴ礁ウィークにあてて久米島、沖縄島、石垣島、奄美大島をつないだシンポをオンラインで実施した。
- ・ 11月末に[REDACTED]で石垣島の名蔵アンパルを含む開発の現場をラムサール登録湿地アンパルの自然を守る会の案内で視察した。すぐに意見書提出につなげることができた。その後、名蔵アンパル干潟に影響が生じるであろう場所に計画されているゴルフ場開発の計画が沖縄県によって許可された。進捗を注視する必要がある。
- ・ 泡瀬干潟のラムサール条約登録を見据えた県鳥獣保護区指定に向けて活動してきたが、現知事のもとでは難しいことが判明した。さらに2022年になり泡瀬干潟のうるま市側の港の拡張工事が決まったという報道がなされた。工事が進んだ場合に、現在モニタリング調査中のサンゴ礁等への影響はまぬがれないと考える。地元団体への支援が必要。
一方で、北中城に東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ（EAAFP）FNS登録等を働きかけており、こちらへの支援が必要。全般に泡瀬干潟の自然の大切さを伝える活動が必要。
- ・ 風力発電について環境影響評価に付する要件を大幅に緩和する改正法案について、反対の立場でパブリックコメントを提出した。

●田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト(田んぼ10年プロジェクト)

<国内での活動>

- ・ 田んぼ10年プロジェクトの後継計画として「田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクト」を策定し、2月に水田の生物・文化多様性2030プロジェクト-水田目標2030-を発行した。
- ・ 2021年12月12日に栃木県小山市中央公民館において、対面とオンライン併用で「田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクトキックオフ集会」を開催した。参加者は現地会場51名、オンライン27名で、農家、生協、自治体・行政の多くの分野の方が新潟県や石川県、岩手県など全国から参加した。
- ・ 「田んぼ10年だより」22号から24号まで3回発行した。
- ・ 生物多様性条約ポスト2020目標との連動や気候変動対策など近年問題が大きい課題への解決へ向けての情報・意見交換を目的とした学習会「気候変動と水田」を2021年8月30日にオンラインで開催し、70名の参加者と意見交換を行った。
- ・ IUCN-Jが中心となった次期生物多様性国家戦略への意見の集約や環境省との意見交換の場に参加し、田んぼの生物多様性保全への意見を提出した。
- ・ 水田決議円卓会議準備会（ラムネットJ、環境省、農水省、国交省）は、第82回から第87回の6回を開催した。今年度の会議では、農林水産省の生物多様性戦略改訂へ向けて、新農林水産省生物多様性戦略の検討内容、耕地整備事業や生物多様性農法の実際などについて意見交換を行った。
- ・ また、みどりの食料システム戦略（6月10日）、新農林水産省生物多様性戦略（12月15日）については、円卓準備会とは別に、オリザネット、日本野鳥の会、自然保護協会、WWF ジャパンらとともに農林水産省と意見交換を行った。
- ・ ラムネットJ水田部会は、第86回から第95回まで10回開催し、本年度の事業進行の打ち合わせを行った。
- ・ オリザネットが主催する農政研究会の一員として、農業の多面的機能支払制度・環境直接支払い制度・中山間地直接支払い制度に対する農林水産省との意見交換会（9月16日、11月11日、1月21日）に参加した。
- ・ 日本オーガニック会議がとりまとめを行なったみどりの食料システム戦略法制化に提言書を提出した。

<国際的な活動>

- ・ コロナ禍のため、今期は実施していない。

- ・日韓田んぼ生きもの調査:コロナ禍のため、今期は実施していない。

<2 政策提言事業>

●国際条約・国際会議に基づく湿地保全

・ラムサール条約：韓国ソジョンで2021年7月5日から7月9日に開催された第9回アジア湿地シンポジウムにオンラインで参加し、生物多様性保全と湿地保全の方向性について情報の収集を行った。

- ・ラムサール条約インフォメーションシート（RIS）の更新状況調査（2021年7月）。

・IUCN：フランス・マルセイユで2021年9月3日から9月11日に開催された国際自然保護連合（IUCN）主催の世界自然保護会議（WCC2020/第7回）は、新型コロナ発生後の国際会議ということもあり、大いに注目された。世界中から集まった多数の専門家による情報発信/議論が行われたこの会議に、ラムネットJメンバー6名がオンラインで参加し、生物多様性保全/湿地保全の最新の世界的な動向等について情報の収集を行った。なお、ラムネットJが発議し、WWTやWWNなど多数の団体とともに提案した動議「湿地保全のために水の自然な流れを守る（Protection of natural flows of water for the conservation of wetlands）」は、WCC2020の決議17として採択された。

・生物多様性条約：2021年5月3日から6月13日までオンラインで開催された第15回生物多様性条約締約国会議の準備会合である第24回科学技術助言補助機関会合（SBSTTA24）・第3回生物多様性条約実施補助機関会合（SBI3）・第3回ポスト2020生物多様性世界枠組みに関する作業部会（OEWG3）に、ラムネットJから6名が参加した。

2021年10月11日～15日には、生物多様性条約第15回締約国会議・カルタヘナ議定書第10回締約国会合・名古屋議定書第4回締約国会合の第一部が、中国の昆明にて対面とオンラインの併用で開催された。ハイレベルセグメントが実施され、そして2022年暫定予算なども議論された。ラムネットJはオンラインで参加した。COP15第2部の開催スケジュールは未発表。

また、2022年3月14日から29日、スイス・ジュネーブに於いて対面とオンラインのハイブリッドで開催されたSBSTTA24/SBI3/OEWG3の3会合の続編にも、6名がオンラインで参加し、主にポスト2020世界目標の検討状況など、生物多様性保全と湿地保全の方向性について情報の収集を行った。

●国内の政策提言

・次期生物多様性国家戦略へ湿地の価値を組み込むことの働きかけ（環境省へ）

2021年8月5日、生物多様性国家戦略（NBSAP）改訂において、湿地保全が十分に組み込まれるように意見を述べた。骨子は、次期NBSAPには、①その湿地部分が、条約が求める「国家湿地政策」であると明示すべきこと、②ラムサール条約の理念（3本柱）と位置づけを明記すべきこと、③湿地の記述について世界湿地概況（GWO）を極力引用すること、④「国家湿地政策」の内容をなす施策を組み込むこと、⑤条約のハンドブックや決議の活用、である（巻末に「意見書」添付）。

この際、国内の条約湿地のRIS（ラムサール・インフォメーション・シート）の改訂状況も調査し、報告書を提出した（ほとんど改訂されていないという状況）。

また、5月に、IUCN-Jが3月に行った生物多様性国家戦略を考えるフォーラム内容からまとめた提言では農業の分科会の成果をくみ入れた。IUCN-JによるI生物多様性国家戦略へのNGO-環境省の意見交換（12月23日）にも参加し、他のNGOと共に同意見を述べた。

・新農林水産省生物多様性戦略改定への働きかけ（農林水産省へ）

<農林水産省との意見交換>

水田決議円卓準備会合（第83回2021年6月10日・第84回2021年7月5日・第85回2021年8月25日・第86回2021年10月20日・第87回2022年2月25日）において新農林水産省小生物多様性戦略についての意見交換

農林水産省生物多様性戦略（12月15日）については、円卓準備会とは別に、オリザネット、日本野鳥の会、自然保護協会、WWF ジャパンらとともに農林水産省と意見交換を行った。

2021年

- 6月10日 みどりの食料システム戦略意見交換会（オリザネット/NACS-J他と）
- 9月16日 第1回農業の多面的機能支払い制度等についての意見交換会（オリザネット/NACS-J他と）
- 11月11日 第2回農業の多面的機能支払い制度等についての意見交換会（オリザネット/NACS-J他と）
- 12月23日 IUCN-Jの国家戦略に関する環境省との意見交換会に参加し意見を発表した。

2022年

- 1月21日 第3回農業の多面的機能支払い制度等についての意見交換会（オリザネット/NACS-J他と）
- 2月14日 みどりの食料システム戦略法制化への提言書（とりまとめ：日本オーガニック会議）

●球磨川プロジェクト

球磨川河口のラムサール条約湿地登録に向けた活動は2年目に入った。農業関係者の懸念である鳥の食害について、実証的に調査した。具体的には年度前半は昼間における見回りに基づく調査、年度後半（1月）にはナイトビジョンを利用した夜間における見回りに基づく調査を行い、データをまとめた。

また、球磨川河口にかつて飛来していたヘラシギを呼び戻すために何が必要かを考えるシンポジウムを、八代市を中心に Web とハイブリッドで行った。具体的には、繁殖地（ロシア）、中継地（上海）、越冬地（バングラデシュ）からの海外報告、日本からは、ヘラシギが2021年に観察された、石川県、岡山県及び福岡県からの報告を受け、球磨川にヘラシギを呼び戻すため必要とされることのクロストークを行った。

●次世代のためにがんばろ会・エコユース八代（EYY）との連携協力

熊本県球磨川河口登録支援プロジェクトの延長で、八代市の地元のNPO法人「次世代のためにがんばろ会」とのコラボレーションを開始した。協力内容は、主に2022年4月に開催される「アジア太平洋水サミット」での発表の機会に向けた八代市の高校生達の水辺の保存を目指すグループ、エコユース八代（EYY: Eco Youth Yatsushiro）の環境学習への支援である。EYYの、世界の若者たちとも交流しつつ活動したいという希望を受けて、世界湿地ネットワーク（WWN）と協力して活動している Youth Engaged in Wetlands（YEW）を紹介し、EYYとYEWとのつながりも支援してきた。支援内容は下記のとおり。

- ・ 2021年8月7日（土）第1回田んぼの生きもの調査（場所：金剛鼠蔵町学習センター・■■■■の有機圃場）講師：■■■■
- ・ 2021年8月8日（日）生物多様性とアジア太平洋水サミットワークショップ（場所：桜十字ホールやつしろ）講師：■■■■
- ・ 2021年12月18日（土）野鳥観察会と水と生きもの学習会（場所：桜十字ホールやつしろ）講師：■■■■
- ・ YEWとEYYとの定期 Zoom 会議の開催支援 主に、連絡調整のサポート及び、専門用語の通訳補助。
① 8/14 プレミーティング、② 9/11 ■■■■によるシギ・チドリ類の渡りに関する話、③ 11/27 エコユース八代の活動、④ 2/5 4月の水サミットでEYYが発表する動画の披露

●久米島プロジェクト

2020年度中に経済産業省に申請していた令和3年度「地域・企業共生型ビジネス導入・創業促進事業」（=久米島プロジェクト）は、残念ながら採択されませんでした。

8月末締切りの「パタゴニア環境助成」に応募したところ200万円のファンドを獲得した。米国のTIDES FOUNDATIONとの契約は1月27日から1年間（US\$18,137.00）の期限でスタートした。蔓延防止期間中につき直ぐに沖縄への渡航が難しく、先んじて3月10日に「サンゴ礁ウイーク・オンラインイベント2022

年トークリレー」を開催した。(報告：<http://www.ramnet-j.org/2022/05/report/5379.html>)

(3)普及・啓発事業

●湿地のグリーンウェイブ(WGW)

1) **キャンペーン**:2021年4月～8月をキャンペーン期間として呼びかけ、全国20都道府県30団体より32タイトルのイベントがエントリー、ラムサール条約条文や湿地保全に関するトピックスをコラムとして掲載したA5判フルカラー16ページのパンフレットを作成、各地の関係団体などに配布した。またホームページでは登録されたイベント情報だけでなく各団体や湿地の情報も合わせて紹介し、イベント終了後に提出された報告も掲載した。

今年度は、キャンペーン開始時にオンラインで「湿地のグリーンウェイブ2021キックオフミーティング～みんなでオンライン湿地自慢～」を、キャンペーン終了後に「湿地のグリーンウェイブ2021オンライン・ミーティング～ポスト2020における湿地保全と地域の活動～」を実施、記録動画をYouTubeにて公開した。

なお、今年のキャンペーンは、WWFジャパン/日本野鳥の会/日本自然保護協会/国連生物多様性の10年市民ネットワーク/IUCN日本委員会の後援を受けて実施した。

2) **お茶会**:キャンペーンとは別に、2020年度からスタートした「湿地のグリーンウェイブ オンラインお茶会」毎月1回を開催し、各地のみなさんとさまざまなテーマについての交流を行った。

3) **SNS**:広報活動の一環として、2019年からFacebookの公開グループ「湿地のグリーンウェイブ」を設置し、イベント情報の共有や交流を行っている。グループ登録者は約160名を数える。

(4)国際協力事業

●WWN(世界湿地ネットワーク)との関係

運営委員会(Management Committee)をほぼ毎月開催した。前代表[]の後任として、年度初めに[](UAE)をWWN代表に選任した。

定期的に各地からの情報交換、ラムサール条約COP14に向けての市民科学調査・サイドイベントの準備、WWNウェブサイトの充実(ストーリーマップなど)、コロンビア新規登録湿地(トタ湖)支援などを行った。

12月の日韓NGO湿地フォーラムでは、[]がWWN代表として挨拶(ビデオレター)。

環境関係条約会議において湿地に関する事項の取り組みを強化させる目的でWWNとWWTとの協力関係について覚書(MoU)を取り交わした。

アジア地域代表会議(Asia Sub Regional Committee)についても毎月開催し、各地の状況について意見交換した。「水の自然な流れ」のケーススタディを収集した。

●翻訳プロジェクト

ラムサール条約50周年を記念して条約HPにファクトシートが公開されたので、この翻訳作業を行った。年度内にラムネットJのHPで公開まで進展しなかったが、年度内に発行した湿地のグリーンウェイブのリーフレットにその内容は活かされた。来期も継続して作業を行い、ラムネットHPでの公開を予定している。

11月末にラムサール条約事務局が発表した Global Wetland Outlook 2021 につき、環境省から受託して翻訳作業を行い、3月18日に納入した。

●日韓NGO湿地フォーラム

12月4日・5日に熊本県・八代市、韓国・仁川市をズームで結び、日韓NGO湿地フォーラムを韓国NGOと協働して行った。本年は「湿地保護区」をテーマに報告と討論を行った。公開フォーラムとした4日は現地参加日本6名、韓国10名、オンライン日本17名韓国29名(合計62名)、非公開の5日は参加約15名。初日の公開フォーラムでは「湿地保護区」をテーマに報告・討論を行った。ポスト2020グローバル生物多様性保全枠組みの検討状況、日韓「湿地保護区」の状況、日韓の湿地の現状が報告され、議論された。2日目は、日韓NGO関係者で、COP14に向けての準備が議論された。

フォーラムの後も、ラムサールCOP14での「水の自然な流れ」をテーマとしたサイドイベントの準備のため、ZOOM会議を年度内に3回開催した。

●球磨川プロジェクト「ヘラシギ国際シンポ～ヘラシギが集う球磨川河口を目指して」の開催

(11月21日) 31名参加(うち6名現地)

ヘラシギの繁殖地(ロシア)、越冬地(バングラデシュ)及び中継地(中国・上海)から海外研究者・NGOのビデオレターによる報告。日本からは、福岡県、岡山県及び石川県からのヘラシギ観察報告を受け、球磨川河口にヘラシギを呼び戻すための活動について、[redacted]のクロストークを行った。

●田んぼ10年プロジェクト

- ・コロナ禍のため、今期は実施していない。
- ・日韓田んぼ生きもの調査:コロナ禍のため、今期は実施していない。

(5)ネットワーク推進事業

●ニュースレター

2021年度はニュースレターを4回発行した(43号～46号)

■第43号(2021年4月8日発行)

- 最近の渡良瀬遊水地 [redacted]
- 東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」オープン [redacted]
- [redacted]と中津干潟 [redacted]
- 湿地巡り:化女沼(宮城県) [redacted]
- ラムネットJが発議したIUCN-WCC決議「湿地保全のために水の自然な流れを守る」について [redacted]

■第44号(2021年7月20日発行)

- 諫早湾干拓問題:有明訴訟の和解協議が始まりました [redacted]
- 玉島の埋め立て地における渡り鳥保護区の確保に向けた取り組みについて [redacted]
- 湿地のグリーンウェイブ2021イベント報告:和歌の浦干潟観察会第34回 [redacted]
- 湿地巡り:伊豆沼・内沼(宮城県) [redacted]
- 課題を残したまま奄美・沖縄は世界自然遺産登録へ [redacted]

■第45号(2021年11月19日発行)

- 奄美大島・嘉徳海岸の自然と護岸工事 [redacted]
- カブトガニが生息する広島県竹原市のハチの干潟に迫り来る危機:LNG火力発電所計画 [redacted]
- やっと開かれたIUCN総会——対面の議論を通して決めるために [redacted]
- 湿地巡り:久米島の溪流・湿地(沖縄県) [redacted]
- 「ポスト2020生物多様性世界枠組」について [redacted]
- 書籍「シジュウカラガン物語」のご紹介 [redacted]

■第4

6号(2022年1月14日発行)

- 日本最南端のラムサール条約湿地
- 石垣島の名蔵アンバルを未来へつなごう! [redacted]
- 沖縄沿岸に大量に漂着している軽石の問題について [redacted]
- 湿地巡り:宮舞町湿原(北海道) [redacted]

→ 報告：第16回日韓NGO湿地フォーラム [REDACTED]

→ ヘラシギ国際シンポジウム報告 [REDACTED]

昨年から引き続き、コロナ禍で配布の機会が少ないため、42号からは700部に減らした。会員や関連団体に郵送したほか、ホームページ等でPDF版を配布した。

●湿地ニュースの配信（毎日メール配信）

2022年1月より一週間ごとに当番制で実施する体制に変わった。ほぼ毎日配信。

●ホームページ等

ホームページでは例年同様、各種活動の情報を発信した。SNSでも「湿地ニュース」を中心に情報を流した。ソフトウェアの入れ替えを計画したが、昨年に続いて作業時間が確保できず実施できなかった。

●パンフレット類

団体紹介のパンフレットや入会案内のリーフレットの作成を計画していたが、コロナ禍で基盤強化への取り組みが進まなかったことや、紙媒体の配布が難しいことなどもあり、発行には至らなかった。

(6) その他の事業

●組織構築の課題への取り組み

2020年以來進めてきた基盤強化部会（評価、ビジョン検討、事業検討の各部会）による組織構築の課題検討作業は、スキームやマンパワーの点で当NGOにうまく適合せず、今年度は開催できなかった。総会において総括のうえ、昨年総会で検討しその後決定した「短期計画（2021-2024）」の実現というやり方で引き継ぐことを2022年総会で議論する必要がある。

2021年度

活動計算書

[税込] (単位: 円)

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日

	特定非営利活動 に係る事業	その他の事業	合計
【経常収益】			
【受取会費】			
受取会費	941,000		941,000
【受取寄付金】			
受取企業協賛金	500,000		500,000
受取寄付金	350,335		350,335
ボランティア受入評価益	3,258		3,258
【受取助成金等】			
受取助成金	3,525,939		3,525,939
【事業収益】			
受託事業収益	770,000		770,000
【その他収益】			
受取 利息	23		23
雑 収 益	147,730		147,730
経常収益 計	6,238,285	0	6,238,285
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
臨時雇賃金(事業)	250,755		250,755
ボランティア評価費用	3,258		3,258
外 注 費(事業)	552,440		552,440
人件費計	806,453	0	806,453
(その他経費)			
業務委託費(事業)	1,144,300		1,144,300
諸 謝 金(事業)	977,094		977,094
印刷製本費(事業)	601,728		601,728
会 議 費(事業)	36,000		36,000
旅費交通費(事業)	668,333		668,333
車 両 費(事業)	6,080		6,080
通信運搬費(事業)	320,159		320,159
消耗品 費(事業)	41,584		41,584
賃 借 料(事業)	40,150		40,150
諸 会 費(事業)	85,781		85,781
接待交際費(事業)	10,000		10,000
支払手数料(事業)	83,255		83,255
分担協賛金(事業)	10,000		10,000
その他経費計	4,024,464	0	4,024,464
事業費 計	4,830,917	0	4,830,917
【管理費】			
(人件費)			
福利厚生費	11,650		11,650
人件費計	11,650	0	11,650
(その他経費)			
事務委託費(管理)	1,225,700		1,225,700
印刷製本費(管理)	5,454		5,454
旅費交通費(管理)	67,248		67,248
通信運搬費(管理)	92,422		92,422
消耗品 費(管理)	46,553		46,553
水道光熱費	36,000		36,000
地代 家賃	312,000		312,000
諸 会 費(管理)	88,730		88,730
支払手数料(管理)	20,539		20,539
その他経費計	1,894,646	0	1,894,646
管理費 計	1,906,296	0	1,906,296
経常費用 計	6,737,213	0	6,737,213
当期経常増減額	△ 498,928	0	△ 498,928
【経常外収益】			
経常外収益 計	0	0	0
【経常外費用】			
経常外費用 計	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	△ 498,928	0	△ 498,928
当期正味財産増減額	△ 498,928	0	△ 498,928
前期繰越正味財産額	3,993,100	0	3,993,100
次期繰越正味財産額	3,494,172	0	3,494,172

2021年度

貸借対照表

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本
全事業所[税込] (単位:円)
2022年3月31日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	741,849
現金	17,585	前受金	2,075,961
普通預金	4,768,006	預り金	89,644
現金・預金計	4,785,591	流動負債計	2,907,454
(売上債権)		負債合計	2,907,454
未収金	833,977	正味財産の部	
未収助成金	775,000	【正味財産】	
売上債権計	1,608,977	前期繰越正味財産額	3,993,100
(その他流動資産)		当期正味財産増減額	△ 498,928
仮払金	7,058	正味財産計	3,494,172
その他流動資産計	7,058	正味財産合計	3,494,172
流動資産合計	6,401,626	負債及び正味財産合計	6,401,626
資産合計	6,401,626		

財務諸表の注記

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

2022年 3月31日 現在

【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

【事業費の内訳】

事業費の区分は以下の通りです。

合計	EAAFPワー クショップ	田んぼ10 (基金)	田んぼ10 (協賛)	球磨川 (KNCF)	日韓・WWN (KNCF)
4,830,917	88,771	2,182,189	69,443	787,469	615,470

GWO翻訳 (MOE)	久米島 (TIDES)	湿地のGW	CEPA全般	ニューステター
769,556	50,000	90,135	7,370	170,514

【活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳】

内容	金額	算定方法
スタッフアルバイト代	717	東京都最低賃金が1013円の時は、助成金から支給できる1000円を超える1013円を支給していたが、2021年10月より最低賃金が1041円になったのを契機に、理事に支払うバイト代についてのみ、助成金から支給できる1000円を超える分をボランティア役務として換算。79.5hr
スタッフアルバイト代	2,541	
	3,258	

【使途等が制約された寄付等の内訳】

[税込] (単位: 円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
沖縄開発問題部会	92,919	0	0	92,919	指定寄付
日韓交流基金	29,056	0	0	29,056	2019年度分 (保留)
合計	121,975			121,975	

【役員及びその近親者との取引の内容】

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

[税込] (単位: 円)

科目	財務諸表に計上 された金額	内、役員との取 引	内、近親者及び 支配法人等との
(活動計算書)			
臨時雇賃金(事業)	250,755	172,755	0
諸謝金(事業)	977,094	448,838	0
業務委託費(事業)	1,144,300	0	894,300
印刷製本費(事業)	601,728	0	61,120
外注費(事業)	552,440	157,500	0
事務委託費(管理)	1,420,400	0	1,420,400
活動計算書計	4,946,717	779,093	2,375,820

財産目録

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本
全事業所

[税込] (単位:円)
2022年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現 金	17,585
普通 預金	4,768,006
郵便口座	(1,254,881)
みずほ銀行	(35,267)
三菱UFJ銀行	(2,747,325)
りそな銀行	(730,533)
現金・預金 計	4,785,591

(売上債権)

未 収 金	833,977
理事 (報酬預り金の預かり忘れ)	(3,201)
Paypal	(60,776)
環境省請負金 (4月7日入金)	(770,000)
未収助成金	775,000
地球環境基金	(775,000)
売上債権 計	1,608,977

(その他流動資産)

仮 払 金	7,058
所得税	(7,058)
その他流動資産 計	7,058

流動資産合計

6,401,626

資産の部 合計

6,401,626

《負債の部》

【流動負債】

未 払 金	741,849
GWO翻訳報酬の支払い (7名分)	(569,977)
銀行手数料 (GWO翻訳料振込手数料)	(1,155)
スタッフ立替精算 (1名分)	(102,964)
経団連 (使い切れなかった分を返金)	(17,061)
NTTファイナンス	(2,147)
シグナレス	(12,706)
JCB法人カード	(35,839)

前 受 金	2,075,961
前受助成金 (TIDES財団・助成金2022年度分)	(2,075,961)

預 り 金	89,644
日韓基金	(29,056)
所得税	(59,285)
賃金所得税	(1,303)
流動負債 計	2,907,454

負債の部 合計

2,907,454

2,907,454

正味財産

3,494,172

2021年度年間役員名簿

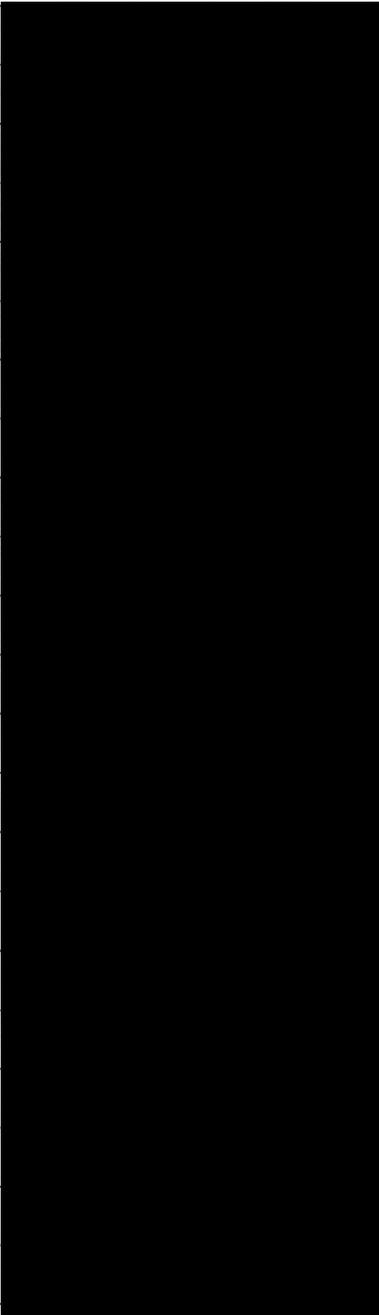
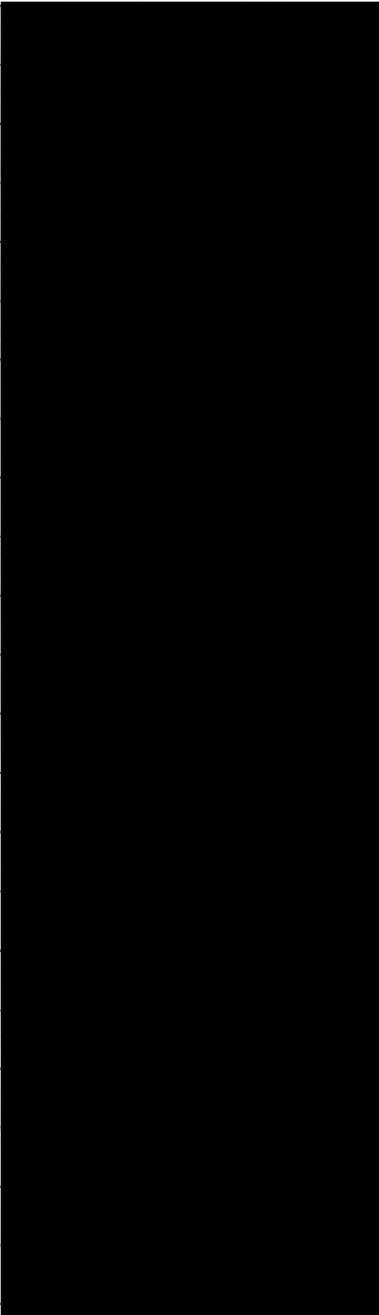
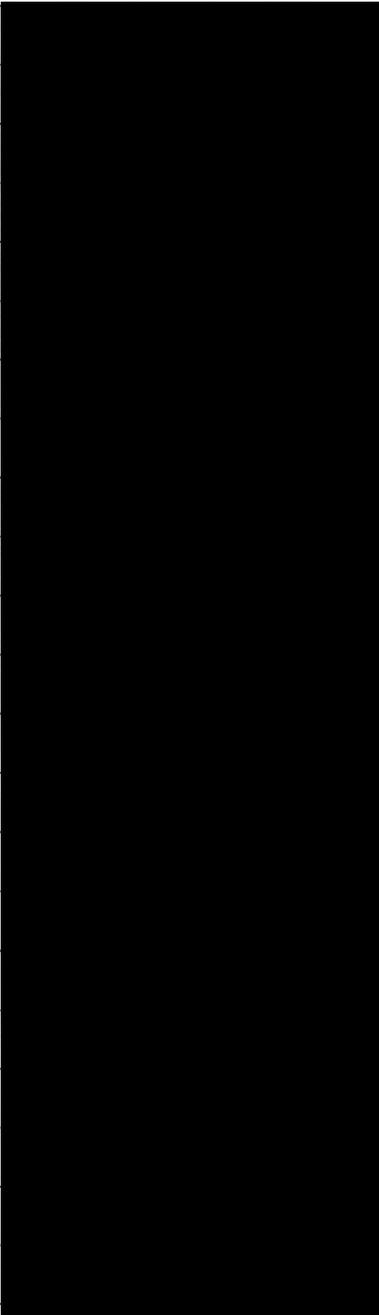
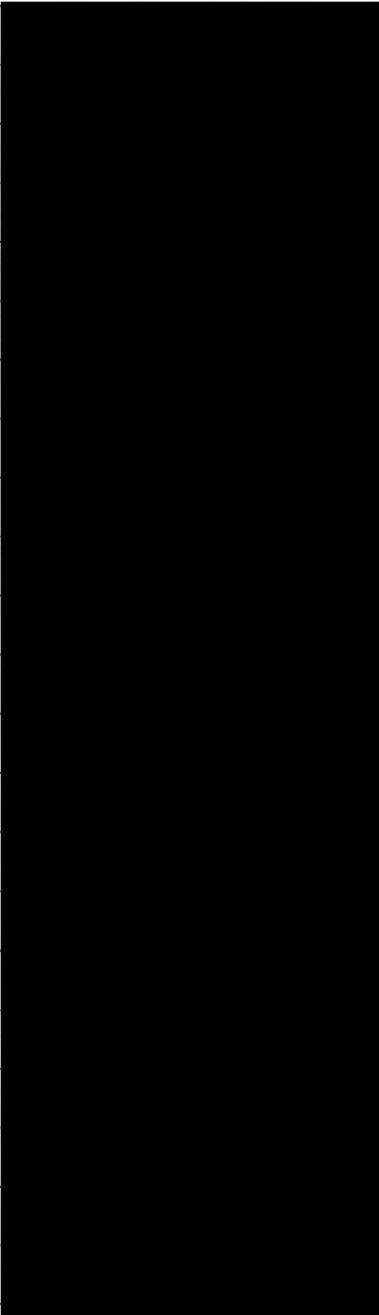
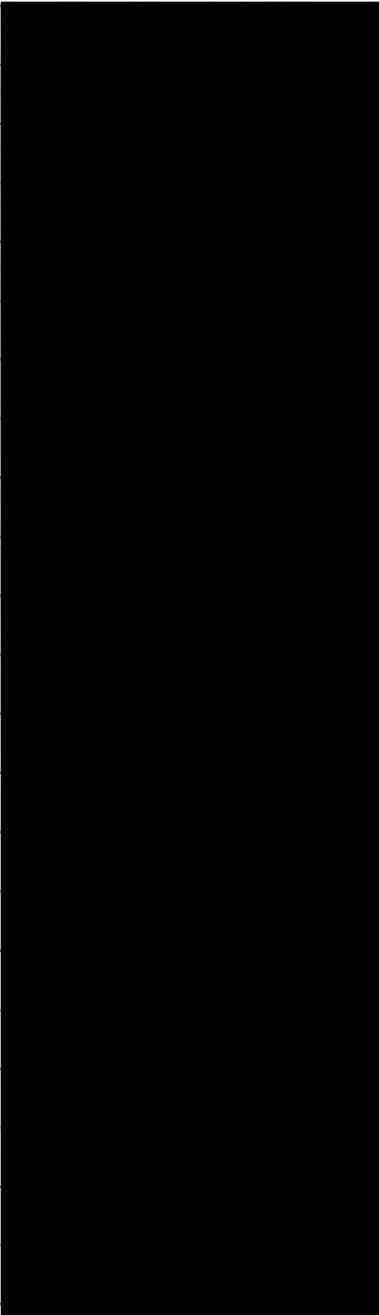
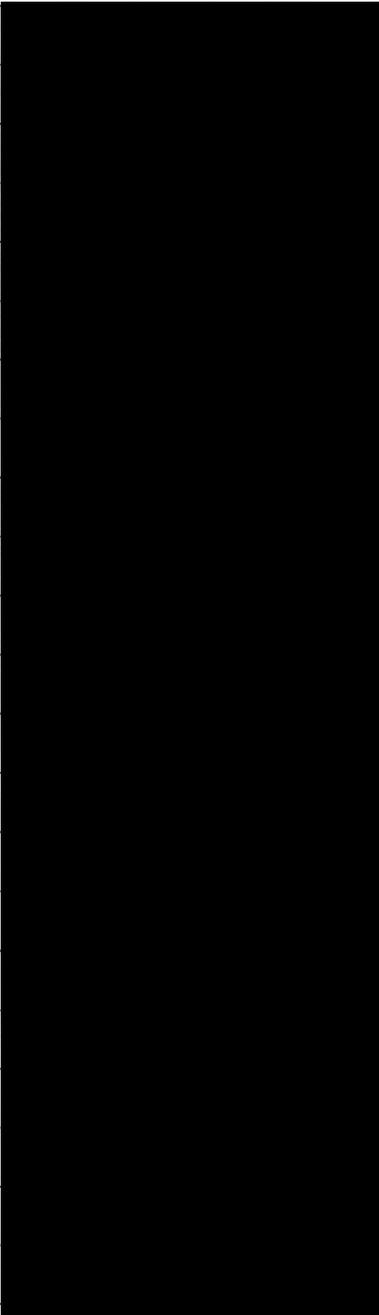
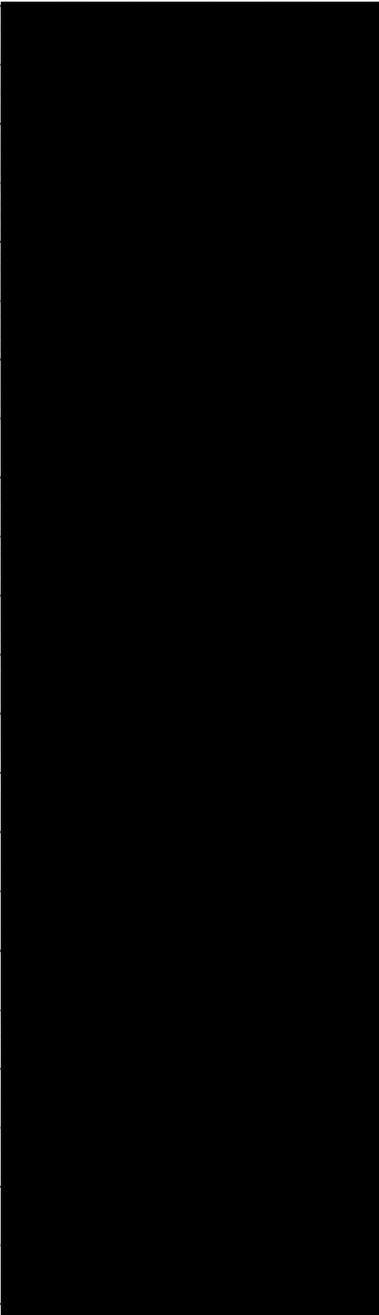
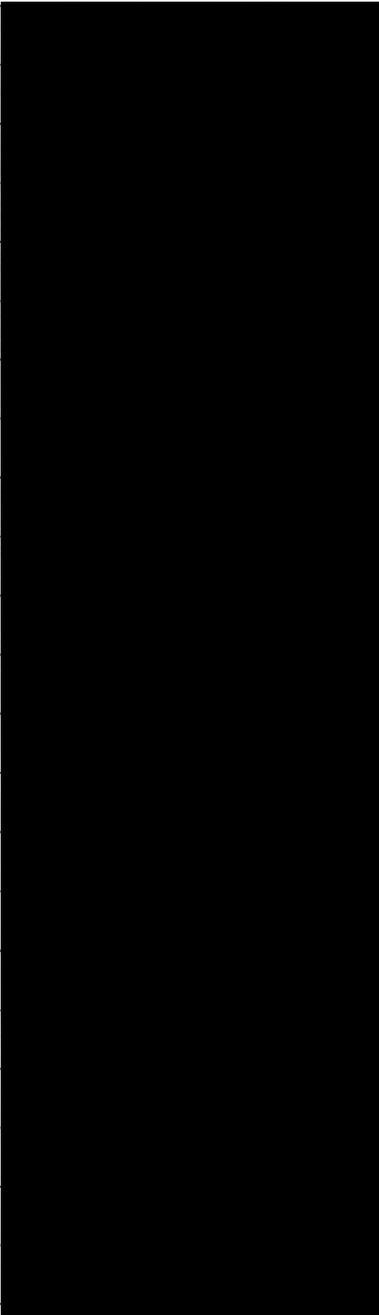
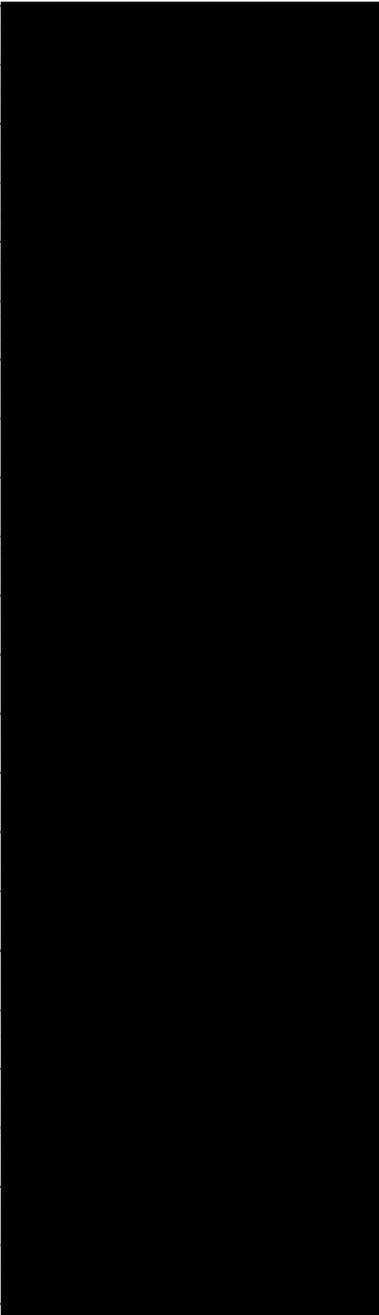
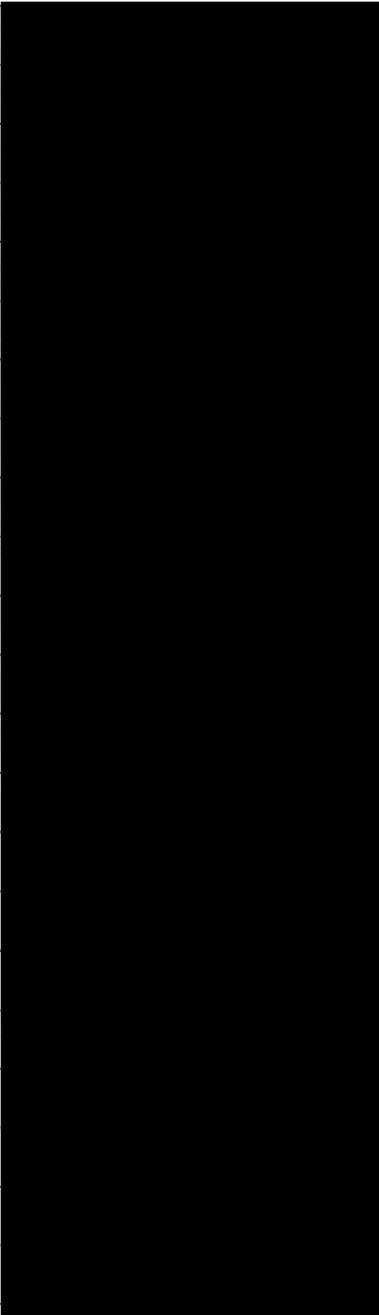
（前事業年度において役員であったことがある全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿）

特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本

1 確認事項（法第20条及び第21条を確認の上、チェックを入れてください。）

- ✓以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第20条関係）
- ✓各役員について、親族の規定に違反していません。（法第21条関係）

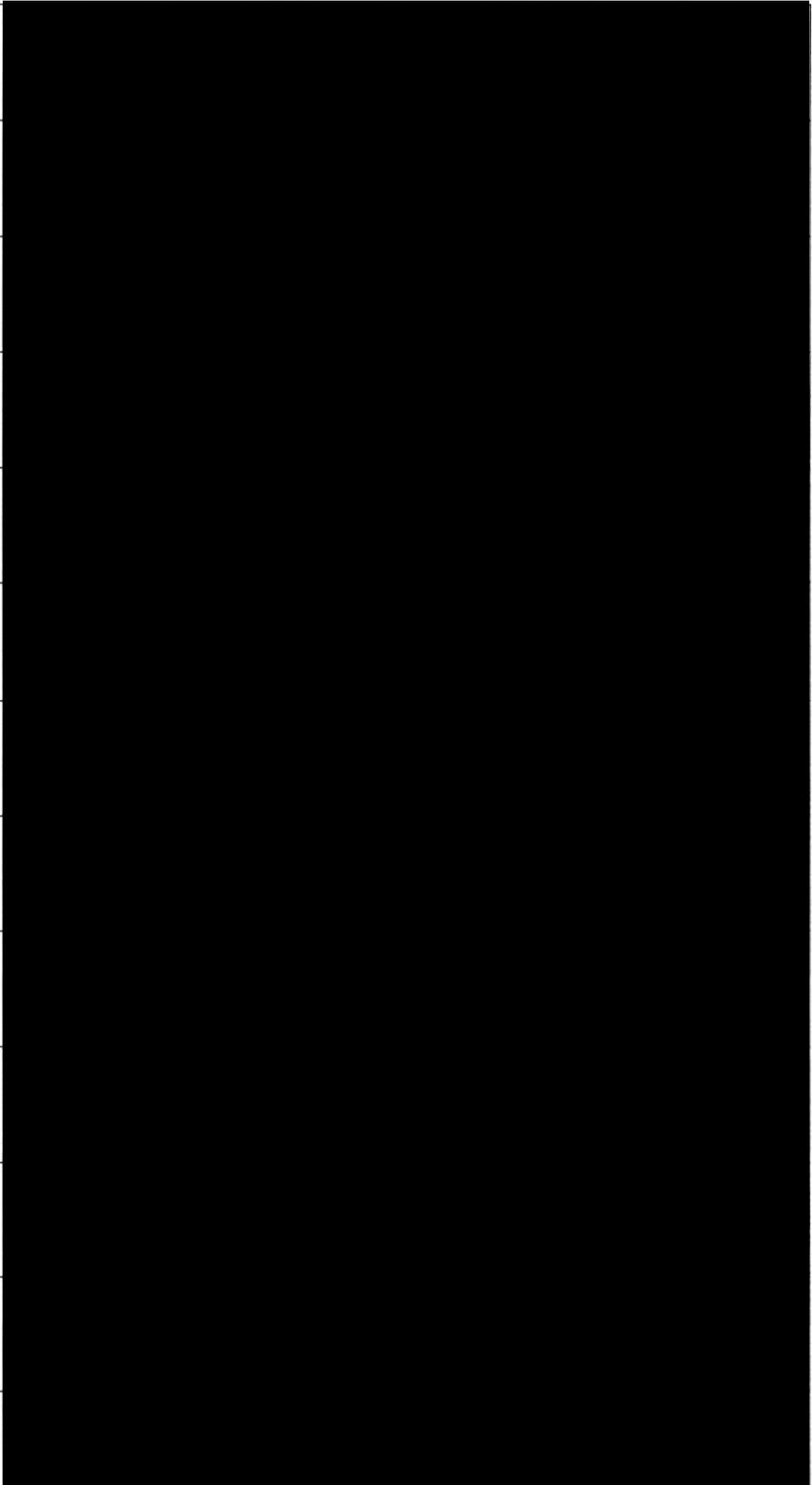
2 役員一覧

	役名 どちらかに○	(フリガナ)		前事業年度内の 就任期間	報酬を受けた期間 (該当者のみに記入)				
		氏名							
1	○理事・監事	カイ ユカ		2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし				
		金井 裕							
2	○理事・監事	カガイツロ			2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし			
		永井光弘							
3	○理事・監事	カシキミル				2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし		
		柏木 實							
4	○理事・監事	クチ マサキ					2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし	
		呉地 正行							
5	○理事・監事	アサノ マトミ						2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
		浅野 正富							
6	○理事・監事	アントウ ヨシノ						2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
		安藤 ヨシノ							
7	○理事・監事	ハラノ ヨシマサ						2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
		原野 好正							
8	○理事・監事	イグチ リエコ						2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
		井口 利枝子							
9	○理事・監事	タノ シゲキ						2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
		高野 茂樹							
10	○理事・監事	スガナミ タツ						2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
		菅波 完							

11	○理事・監事	ジンナイ タキキ 陣内 隆之	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
12	○理事・監事	ハツリ タクウ 服部 卓朗	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
13	○理事・監事	タカ ヒロシ 田中 博	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
14	○理事・監事	アベ マリコ 安部真理子	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
15	○理事・監事	カメイ コウジ 亀井 浩次	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
16	○理事・監事	サケ セツオ 佐竹 節夫	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
17	○理事・監事	フナバシ レイジ 船橋 玲二	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
18	○理事・監事	マツモト サトル 松本 悟	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
19	○理事・監事	コシミ ユキヒロ 古南 幸弘	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
20	○理事・監事	オツカ タイスク 大塚 泰介	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
21	○理事・監事	カツノ ヨウコ 勝野 陽子	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
22	○理事・監事	スガワリ カチ 砂川 かおり	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
23	○理事・監事	ゴトウ ナミ 後藤 奈穂美	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
24	理事・○監事	シマダ ヒサオ 嶋田 久夫	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし
25	理事・○監事	ホリ リョウイチ 堀 良一	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	なし

社員名簿（社員のうち10人以上の者の名簿）

特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本

	氏名	
1	柏木 實	
2	呉地正行	
3	堀 良一	
4	浅野正富	
5	安藤ヨシノ	
6	原野好正	
7	井口利枝子	
8	高野茂樹	
9	永井光弘	
10	古南 幸弘	
11	金井 裕	
12	佐竹 節夫	